足利絹手摺の図
六編上
仙果作
錦林堂
壽梓

足利絹手染紫六編序

藤末葉八巻でも☐で若菜八☐☐橋書ても叔々長井が居合の大刀抜る丈ちをつぐる者累紐まで表中に丸意猫の綱を切て駈出させてちょいづ有るといふ人あれども其程とび色も紫の染返しの本意なれあらなさ分を張て六段の袖を引子日の野遊の小松原末々まで運ぶる其続残解初る正月は柳は縁あさ紀学で及ぬ大場ち古熟係てのまく師匠の由縁是が實の面影と御見捨なく御覧の程只管願ふといふ事討肩籠る稚枝ぬき出しく序ハぞんど綴く記す

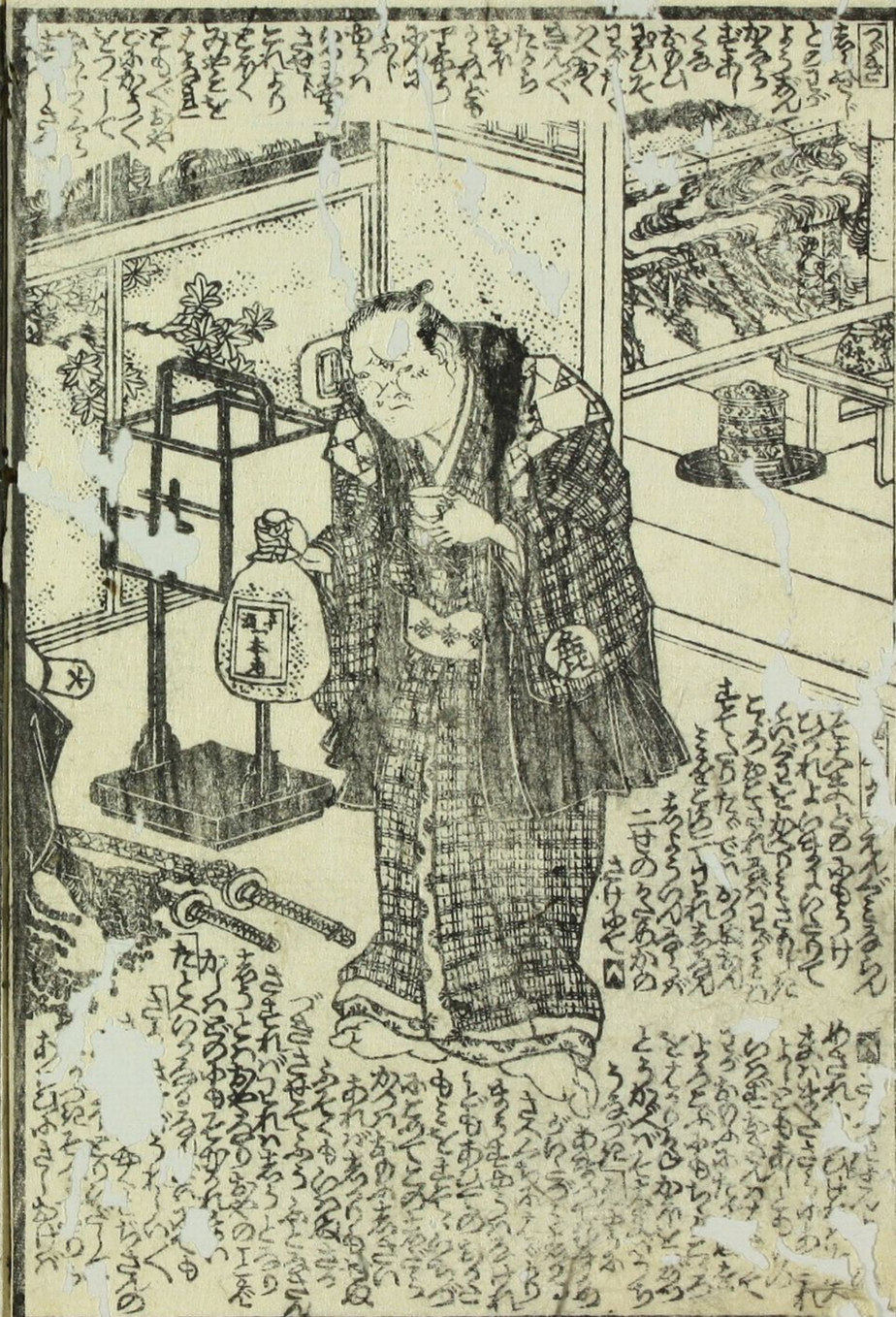
嘉永三年庚戌正月吉祥日

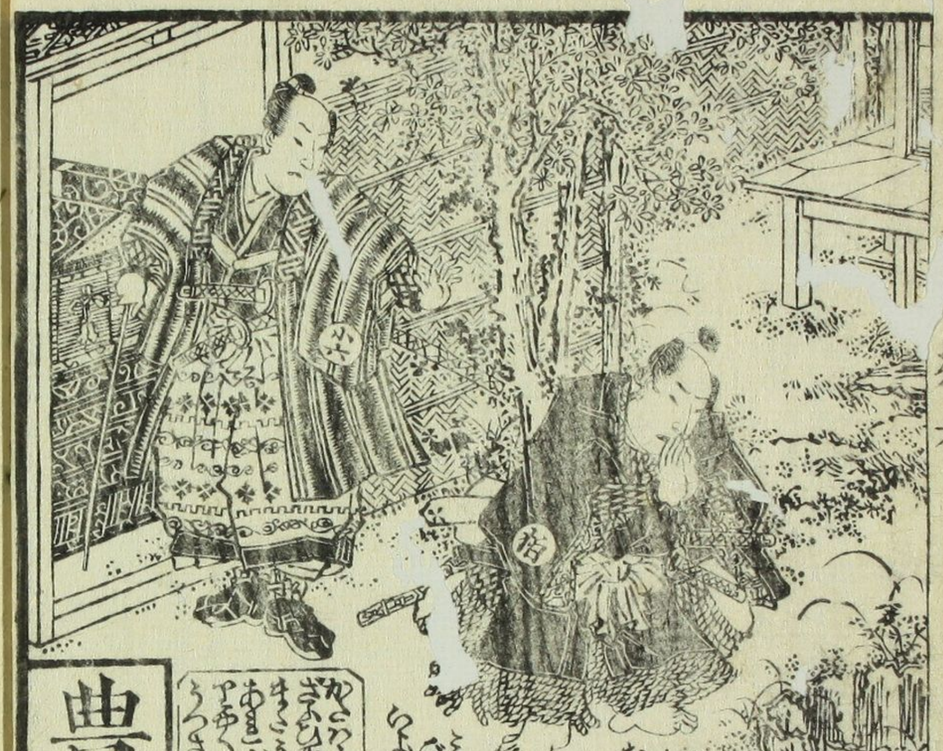
柳亭門人
笠亭仙果

浄書 玄魚

昔人のんたひ〜ろ、ゆく
よくゆるさるゝ事の
とゝとい思ひあるるぬわと
るそひさうけん
いまの世
わい
きたくしく
ゝくろかしき
とものあるあ
ゝるとく
三會姫のめしうど
中里
女三宮ハ比丘尼
前征夷大將軍
足利義尚公
養女
三會姫

足利絵入
大喬木嵯右衛門
於三
折乗集
萩欲後とゆふことを





豐國画　仙果作

新刻校正　御江戸昌平町鑑　朱字細註横本　全一冊出版

半紙摺薄用摺

嘉永三年新彫

教訓浮世めぐり　全三冊　万亭應賀作　溪齋英泉画

兩筋戀ぢ山道　全二冊　万亭應賀作　一勇齋國芳画

勸善懲惡　粟合噺　七編　八編　柳下亭種員作　一陽齋豐國画

刊行書肆　東都　錦林堂

庚戌新刻
豊国画
六編下

庚戌
孟陬
吉辰
開市

仙果作

豊国画

手深のもりもの

六編下

神田錦林堂壽梁

茶道其

ふぢ源

分身橋

仙果作　豐國画

嘉永三年庚戌春新版

其由縁鄙面影改題

足利紡手染

柳亭種彦翁門人　笠亭仙果作

一陽齋豐國画

六編七編八編　當戌年夏出板藍染業の末より若葉の上に花を
ゆゑん紫の花の桔梗の桔梗の花の狂言中ごろ花書こそ作者画工の骨折入りもちろん
彫るこも格かに仕様成果出来のうち下は
錦林堂敬白

諸藝御目見雙六　万亭應賀作　歌川豐國画

深模様仕立雙六　同作　同画

雅源氏東國初旅　第四編　仙果作　国芳画

東海堂梓行

元版　神田鍛冶町二丁目　太田屋佐吉